

凡人社オンライン日本語サロン講座(全4回)

日本語教師の成長スイッチ—当たり前を問い直そう！—

日時:

第1回:2022年1月29日(土)14:00~17:00(オープン 13:40)

日本語教育の「当たり前」を共有し、その妥当性を考えよう

第2回:2022年2月18日(金)19:00~21:00(オープン 18:45)

教室活動の「当たり前」を考えよう

第3回:2022年3月4日(金)19:00~21:00(オープン 18:45)

教師の役割の「当たり前」を考えよう

第4回:2022年3月19日(土)14:00~17:00(オープン 13:40)

評価の「当たり前」を考えて、さらなる成長につなげよう

※オンラインペースですが、第4回は博多より配信予定です。対面参加も可能ですのでお申し込みの際、対面希望とご記入もしくはチェックをお願いします。対面参加ご希望の参加者の方には詳細をお送りします。

定員:各回200名(先着順、定員になり次第締め切ります。)

対象:主に日本語教師、日本語教育ボランティア、日本語教育に関心のある方

参加費:第1回 無料/第2回~第4回 3,000円(税込)※要予約

※お支払いはクレジット決済(VISAかMASTER)のみとなります。

※お支払い確定後、キャンセルの場合も参加費の返金できません。

※第2回~第4回はセットでのお申し込みとなります。1回のみの参加でも3,000円となります。

講師:

石澤徹(東京外国語大学)、伊東克洋(東京外国語大学)、金子史朗(友ランゲージグループ校)、

松尾慎(東京女子大学)、横溝紳一郎(西南学院大学)

内容:

この2年で、それまで当たり前だったことが大きく変わりました。変化に対応することは、ときに苦しいことでもありますが、逆に今がまさに「教師として成長スイッチを押すことができるチャンス」ではないでしょうか。今回の連続企画を通して、私たちと一緒に「当たり前」を問い直し、さらなる成長への第一歩を踏み出しましょう。

主催:凡人社

お問い合わせ・申し込み先(担当:凡人社/坂井)

E-mail: ksakai@bonjinsha.co.jp

※下記お申込みフォーム(二次元バーコード)かメールでお申し込みください。メールでお申し込みの際はタイトルに「日本語教師の成長スイッチ(第1回)」または「日本語教師の成長スイッチ(全回)」と入れて、本文にご氏名・ご所属・ご連絡先をご記入ください。全回お申し込みの皆さまには、決済に必要なURLをお送りします。



日本語教師の成長スイッチ—当たり前を問い直そう！—

各回のテーマ:

第1回 日本語教育の「当たり前」を共有し、その妥当性を考えよう

第2回 教室活動の「当たり前」を考えよう

第3回 教師の役割の「当たり前」を考えよう

第4回 評価の「当たり前」を考えて、さらなる成長につなげよう

講師からひとこと:

石澤徹(東京外国語大学)

私たちは日々大小さまざまな変化に対応しているわけですが、今回の大きな変化に直面し、いつの間にか変化の意識の外側になっていた「当たり前」にも目を向けることが求められました。この2年、私はずっともがいてきましたが、みなさんもそれぞれに創意工夫してこられたことと思います。今回の企画は、そんな試行錯誤の経験をもとにこれまでを振り返り、気づきを共有し、少し先のさらに成長した自分を描きかけとしようというものです。みなさんといっしょに成長スイッチをオンにできることを心待ちにしております。

伊東克洋(東京外国語大学)

この2年、私もみなさんと同じように試行錯誤を繰り返してきました。なんだか日本語教師になりたてのころに戻ったような感覚で、新鮮な気持ちでいろいろな課題に取り組むことができましたが、同時にこれまで対面授業で「当たり前」だと思っていたことに対する「？」が出てきたことも多かったです。振り返ってみると、教師経験の長さと同比例して、そういった「？」に対する感度が鈍ってたんだなあと思いました。今回のスイッチではそんな「？」をもとに、みなさんといっしょにさらなる成長を目指したいと思います！

金子史朗(友ランゲージグループ校)

コロナ禍になって2年。新たな変異株の出現、再びの入国制限など先の見えない状況に不安を感じている方も多いのではないのでしょうか。今回の成長スイッチでは、これまでの「当たり前」を見直すことから成長の可能性を探っていきます。不安を抱えながらも成長を目指す仲間たちと集い、考え、語り合い、つながり、明日への希望・期待を感じる…、成長スイッチがそんな「場」になれたらと思っています。

今回もいろいろな方々との出会い、再会を楽しみにしています。

松尾慎(東京女子大学)

私は、毎週日曜日、ミャンマー出身の方々とは日本語活動をしています。ここ2年で、新型コロナウイルスに加え、軍事クーデターによっても「当たり前」が揺さぶられています。前回、日本語教師の成長にとって「多様な学習者や現場に対応できるティーチングの引き出しを増やしていくこと」と「教室の外に視野を広げ教室内での実践そのものが社会的な営みとなるよう努めていくこと」2つの側面を挙げました。「当たり前」が揺さぶられても、この2点を大切にしていきたいと思います。参加者全員で対話しながらともに成長していきましょう。

横溝紳一郎(西南学院大学)

日本語教育分野に足を踏み入れてから、かなりの年月が経ったのですが、その時その時でいつも私は「右往左往」を続けてきたように思います。「だいぶ落ち着いてきたかな…」と思えてきた矢先のコロナ禍の影響で、更なる右往左往が始まりました。この事態は決して望ましいものではなかったのですが、右往左往を繰り返していく中で、「自分にとっての当たり前を問い直すことの大切さ」に気づくことができたようにも思えます。みなさんとその気づきを共有できればと願っています。